

case 01

株式会社 INOMER

プロジェクト名	理学療法士向けソフトウェア搭載型歩行リハビリ用ウェアラブルロボットの開発	
企業の所在地	奈良県奈良市左京6丁目5-2	
企業の事業概要	理学療法士向けツールの製作等	
実現しようと しているサービス	想定顧客	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院（理学療法士）</li> </ul>
	想定顧客が 抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業量が多く人手が足りない。介入量が不足。</li> <li>・ 股関節への介助は高度な技術が必要で、理学療法士のスキルの個人差や日によるばらつきが生じる。教育にかけられる時間も少ない。</li> <li>・ 介助スキルが暗黙知になっている。属人化している。</li> <li>・ 他の理学療法士への症状や処置の引継ぎの時間が充分とれない</li> </ul>
	サービスが 提供する 価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 脳卒中片まひ患者の本来の体の使い方を阻害することなく、歩行動作をサポートできる</li> <li>・ 「一定の力で介入が可能」「30秒以内の着脱」「スタッフによらないリハビリの再現性」の特徴を有す</li> <li>・ リハビリ実施状況の記録管理、リハビリ状態の定量分析が可能になる「歩行リハビリの属人化の解消」「歩行リハビリの質の担保」が可能なソリューション</li> </ul>
開発・実証 プロジェクトで 取り組んだ内容、 県内企業との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取得データから歩行動作解析を行うソフトウェアの開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 歩行動作データを解析機能</li> <li>◆ 各特長と理学療法士が設定したロボットの設定値を関連づけることで技術を可視化</li> </ul> </li> <li>・ 片まひ患者のリハビリ時の歩行データの管理機能の開発（によるリハビリ効果の向上） <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ データ取得およびデータベースとの通信が行えるロボット作成</li> <li>◆ クラウドと通信可能な基板開発</li> <li>◆ データを蓄積するクラウドサーバーの構築</li> <li>◆ ロボットがクラウドに流す情報をコントロールするソフトウェア</li> <li>◆ 患者情報と機器情報を登録する機能</li> </ul> </li> <li>・ 取得データの表示機能の開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ タブレットでの表示機能の作成(測定結果を数値で表示する機能)</li> </ul> </li> <li>・ ソフトウェア開発において、県内企業と連携</li> </ul>	



装着した状態



歩行リハビリでの利用



理学療法士が使用するタブレット

<問い合わせ先>

株式会社INOMER（担当：岩井）

WEB : <https://inomer.co.jp/>